

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

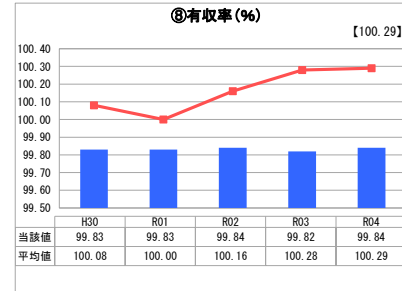
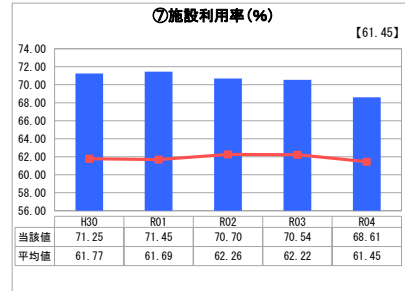
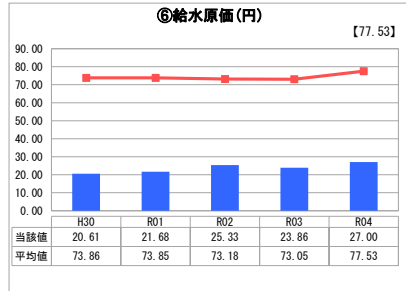
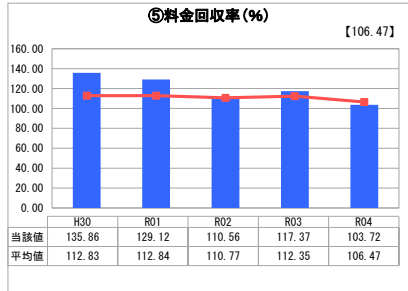
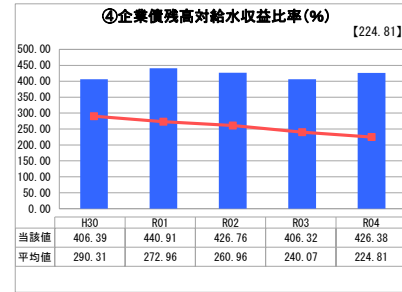
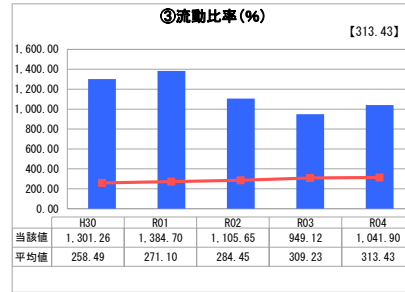
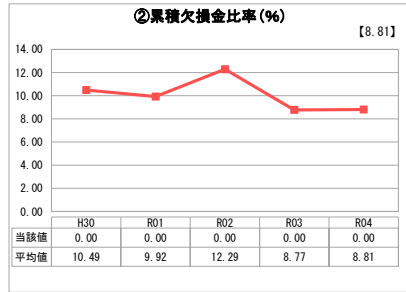
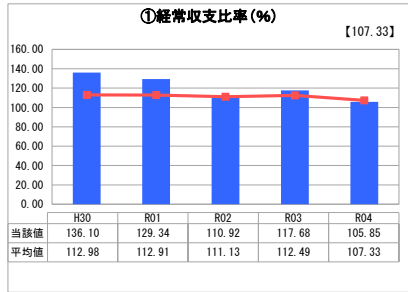
岡山県 備南水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	50.56	99.94	0	

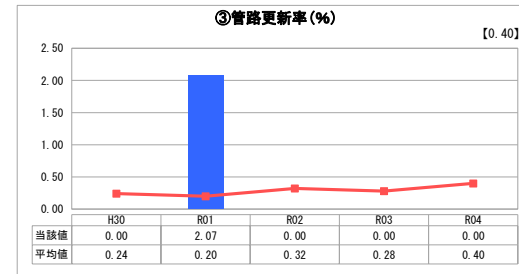
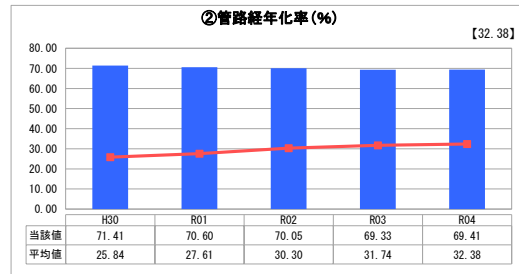
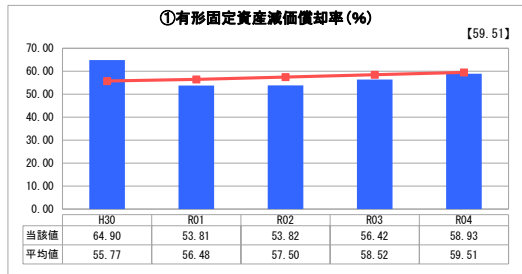
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
489,042	363.69	1,344.67

グラフ例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率について、100%以上となっており、単年度の収支は黒字で健全な経営を維持している。また類似団体の平均値と同程度となっている。  
 ② 累積欠損金比率について、0%となっており、経営は健全である。  
 ③ 流動比率について、100%以上となっており、1年以内に支払うべき債務に対して、支払能力を有することができている。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率について、R04に上昇しているが、この要因としては施設更新の財源として新たな起債を発行したためである。R02～R03の減少については、企業債の発行がなかったためである。  
 ⑤ 料金回収率について、100%を超えて推移しており、事業に係る費用を料金で賄えている。  
 ⑥ 給水原価について、有収水量1m<sup>3</sup>当りの費用を表しており、R04は電気料金等の物価上昇で上昇した。類似団体と比較しても安い原価となっている。  
 ⑦ 施設利用率について、施設の利用状況や適正規模を表しているが、類似団体よりも高い数値で推移している。  
 ⑧ 有収率について、100%近くで推移しており、送水量のほとんどが収益につながっている。

以上の分析から健全な経営ができていると判断できる。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率について、H30については類似団体よりも高い数値となっており、資産の老朽化が進んでいたが、R01に配水池や設備を更新したため率が低下している。  
 ② 管路経年化率について、類似団体よりも高い数値となっており、管路の老朽化が進んでいる。R01～R03については、老朽化した管路の更新・撤去を行ったため、率が低下している。  
 ③ 管路更新率について、類似団体よりも低い数値となっており、管路の更新が進んでいない。R01については、配水池の更新に伴い管路を更新したため、率が上昇した。

以上の分析から施設・管路の老朽化が進んでいること及び管路の更新が進んでいないことが判断できる。

### 全体総括

施設の老朽化については、更新計画に基づき施設の更新を行っているところであるが、「2. 老朽化の状況」が示す通り、更新が進んでいないのが現状である。今後は計画的に施設・管路の更新を進めていく必要がある。

また経営については、電気料金等の物価上昇の影響でR04の経営状況は悪化している。さらに今後必要施設等の更新に伴い、費用や企業債が増加する見込みのため、より一層の効率経営に努めるとともに、料金改定を含めた収益性向上・財源確保が必要となる。